

## がん検診のメリットとデメリットについて

がん検診にはメリットとデメリットがあります。以下の内容をご理解の上、検診を受けてください。

### がん検診のメリット

#### □早期発見できる

がん検診は自覚症状がない時点で行われることから、進行していない早期のがんを発見でき可能性があります。早期であれば治せることが多く、がんによる死亡率を低下させ、救命できる効果を期待できます。

また、治療も軽くすむことが多いので、患者さんにかかる身体的負担、経済的負担や時間は一般的に少なくてすみます。

#### □“前がん病変”を見つけることもできる

がん検診では早期がんを見つけるばかりではなく、“前がん病変”（がんになる前段階の病変）が見つかることもあります。具体的に“前がん病変”とは、大腸がん検診で診断される大腸ポリープ（大腸腺腫）や子宮頸がん検診で検出される異型上皮などです。このような“前がん病変”が発見された場合は、経過を観察したり、必要に応じて治療したりすることで、がんになることを防ぐことができます。

### がん検診のデメリット

#### □がん検診に伴う負担とリスク

がん検診では、検査によって身体に負担がかかってしまうことがあります。例えば、X線検査では放射線を被曝するという問題があります。胃がん検診で使うバリウムにより便秘になることがあります。極めて稀ですが胃がん検診の内視鏡検査では出血や胃や腸に穴を開けてしまうリスクもゼロではありません。

#### □偽陰性：がんがあっても、「異常なし」と診断してしまう可能性

がんがあっても「異常なし」と診断し、がんを見逃してしまうことがあります（偽陰性）。がん検診の精度は100%ではありません。がんを見つけにくい場所にあったり、極めて小さかったりすると、がんを発見できないことがあります。

ただし、1回のがん検診で見つけることができなくても、定期的に検診を受け続けることにより、がんを発見できる確率は高まり、がんによる死亡を回避する可能性も高くなります。このため、がん検診は単発の受診ではなく、適切な間隔で受け続けることが必要です。

#### □偽陽性：がんがなくても、「がんの疑い」と診断してしまう可能性

「がんの疑い」と診断され精密検査を行っても、「がんではなかった」と診断されることもあります（偽陽性）。精密検査が必要と判定された場合でも、がんと判断される確率は、胃がん検診で1.50%、最も高い乳がん検診でも4.15%にすぎません。「がんの疑い」と診断されても、多くの方が「がんではなかった」という結果を受け取ることとなります。

#### □過剰診断：生命に影響しないがんを診断してしまう可能性

検診で見つかるがんには、放置していても進行がんにならなかつたり、そのままの状況にとどまったりして生命に影響しないがんもあります。このようながんを発見することを“過剰診断”といいます。しかし、今のところ、生命に影響しないがんと、進行して生命を脅かす普通のがんとを区別することができません。

（日本対がん協会および日本医師会のホームページを参考に作成しました）

説明医師 \_\_\_\_\_ (自著)

以上のがん検診のメリットとデメリットをよく理解した上で、がん検診を受けること希望します。

令和 年 月 日

受診者氏名 \_\_\_\_\_ (自著)

(医療機関用)